

西南戦争の戦死者たち

明治六年（一八七三）、対朝鮮問題をめぐる政争に敗れた西郷隆盛は、職を辞して故郷の鹿児島に隠棲しますが、明治政府に不満を持つ鹿児島県士族らに担がれ、明治十年（一八七七）二月、政府打倒の兵を挙げました。政府はこれを反乱とみなし、征討軍を編成して出動します。それから七ヶ月余りに及び現在の熊本・大分・宮崎・鹿児島県域を舞台に国内最後の内戦・西南戦争が繰り広げられます。政府軍は、明治六年に発布した徴兵令により一般市民から招集した兵士で構成されており、この戦争は新

政府の政策の意義を問う戦争でもありました。政府はまず東京・大阪の鎮台（当時の軍編成の単位）と近衛兵からなる混成旅団を編成し、薩摩軍に当たります。当時、美作地域から徴兵された兵士は大阪鎮台に所属しており、鏡野町域からは少なくとも十二名が政府軍として出征し、五名が亡くなりました。

は、田原坂の戦いに次ぐ激戦地といわれ、膠着状態にあった田原坂の戦局を打開するための作戦として、政府軍は抜刀隊を編成して横平山奪取を試み、多大な犠牲を払いながらも占領した日がこの日にあたります。

あったことが想像できます。田原坂を制した政府軍は、東の植木まで進軍し、薩摩軍と対峙します。そして二十三日、攻撃前進を行い、一時は薩摩軍の陣地を突破しますが、薩摩軍の猛反撃に遭い撃退されます。この戦いの中で小座村の長石滝五郎が戦死しています。

また、戦争終盤の八月十四日には、土居村出身の近衛歩兵・内海久太郎が陸軍病院で病死しています。この戦争では、両軍合わせて一万三千人以上の戦死者が出たと言われます。

戦後の明治十一年五月二十日には、地元有志により中山神社においてこの五名を含む西々條郡・西北條郡内の戦死者九名の招魂祭が執り行われました。

ちなみに、北條県（明治四十九年まで美作地域に設置された県）の初代参事（知事）の旧薩摩藩士・淵辺高照は薩摩軍の幹部として西南戦争に従軍し、六月一日に戦死しています。

このように概観すると、大河ドラマの世界も遠い世界の出来事ではなかったことを実感させられます。

参考資料：『西南戦争』新編・西南戦史

『岡山県戦死者忠魂録』『苦田郡誌』
『鏡野町史』『奥津町史』『富村史』
『中島家文書』

生涯学習課 日下

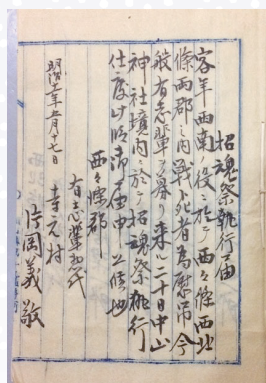
電話(0868)54-7733



田原坂（熊本市）



山崎新太郎碑（富東谷）



招魂祭執行届（中島家文書）

招魂祭執行届（中島家文書）

招魂祭執行届（中島家文書）